

第 47 号 平成 30 年 3 月 13 日

社会福祉法人元気村 夢工房翔裕園

〒365-0025 埼玉県鴻巣市下谷41

TEL048-540-5000

FAX048-544-0050

あおぞらベーカリー TEL048-540-7080

【平成30年4月1日施行となる改正障害者総合支援法について】

平成29年度最後のあおぞら通信となりますが、平成30年4月1日施行となる改正障害者総合支援法についてお知らせしたいと思います。障害者総合支援法の附則では、施行後3年を目途として障害福祉サービスの在り方等について検討を加え、その結果に基づいて所要の措置を講ずることとされています。今回の改正の概要は、下記のとおりです。

〔概要〕

1. 障害者の望む地域生活の支援

(1)「自立生活援助」

施設入所支援や共同生活援助を利用していた者等を対象として、定期的な巡回訪問や随時の対応により、 円滑な地域生活に向けた相談・助言等を行うサービスを新設する。

(2)「就労定着支援」

就業に伴う生活面の課題に対応できるよう、事業所・家族との連絡調整等の支援を行うサービスを新設する。

※当園において現在サービス提供している「就労移行支援事業」に係わる内容です。3月20日に埼玉県の事業者向け説明会が開催され埼玉県の方向性が示されますのであおぞら通信5月号において詳細をお知らせいたします。

(3)「重度訪問介護について」

重度訪問介護について、医療機関への入院時も一定の支援を可能とする

(4)「低所得の高齢障害者利用者負担について」

65 歳に至るまで相当の長期間にわたり障害福祉サービスを利用してきた低所得の高齢障がい者が引き続き障害福祉サービスに相当する介護保険サービスを利用する場合に、障がい者の所得の状況や障害の程度等の事情を勘案し、当該介護保険サービスの利用者負担を障害福祉制度により軽減(償還)できる仕組みを設ける

2. 障害児支援のニーズの多様化へのきめ細やかな対応

(1)「居宅での支援の新設」

重度の障害等により外出が著しく困難な障害児に対し、居宅を訪問して発達支援を提供するサービスを 新設する(居宅訪問型児童発達支援)

(2)「保育所等訪問支援の対象の拡大」

保育所等の障害児に発達支援を提供する保育所等訪問支援について、乳児院・児童養護施設の障がい児に 対象を拡大する等

(3)「障害児福祉計画」

障害児のサービスに係る提供体制の計画的な構築を推進するため、自治体において障害児福祉計画を策 定するものとする。

3. サービスの質の確保・向上に向けた環境整備

(1)「補装具について」

補装具について、成長に伴い短期間で取り替える必要のある障害児の場合等に貸与の活用も可能とする。

(2)「情報公開について」

都道府県がサービス事業所の事業内容等の情報を公開する制度を設けるとともに、自治体の事務の効率 化を図るため、所要の規定を整備する。

平成30年4月1日に施行される改正法は障害のある方が自らの望む地域生活を営むことができるよう、サービスを新設し、「生活」と「就労」に対する支援の一層の充実や高齢障害者による介護保険サービスの円滑な利用を促進することを狙いとしています。

また、障害児支援については新設されるものや対象の拡大が打ち出されています。

これらのことが障害のある方が自ら望む地域生活につながるのか見極めていく必要はありますが、安心して地域で過ごしていくための「就労」以外に関することも社会資源として知っておく必要はあると思います。

当園においても柔軟に対応できるよう情報収集し適切なサービス提供に努めますので今後ともご支援ご 指導のほど宜しくお願い申し上げます。

平成 29 年度就労移行就職状況

今年度の就職者は2月末時点で、就労移行からは6名が就職することが出来ました。 職種等の内訳は下記の通りです。

・物流倉庫 2名
・レストラン 1名
・薬局 1名
・飲料メーカー 1名
・事務 1名

一人一人自分の得意分野や興味がある分野で活躍しております。

昨年度に引き続き、多くの就職者を輩出することが出来ました。

今年度からは、関連機関が主催して企業の見学会等が多く開催されており、企業にお邪魔して実際の仕事 を体験することや企業の担当者から話が聞ける機会が増えてきています。

就職後は、就労移行のスタッフが必要に応じて職場に訪問して仕事の様子を聞いたり、仕事での悩みを聴いたりと、安心して長く仕事を続けていける様にサポートしています。

就職は日々の就労訓練の延長にあるものです。訓練を通じて、得意分野を伸ばし、体力・気力ともに充実 させ、よりよい職場環境で長く勤められるよう一緒に取り組んでいきたいと思っています。

ボーリングレクリェーション

皆さん、2月は平昌オリンピックで日本人選手が大活躍しました。メダルの数も冬季オリンピックでは過去 最高を記録したとのことで、選手たちの日々の努力の賜物だと思いました。そんな選手たちの姿を見て「自 分たちも頑張らなければ」と感じた方も多いのではないかと思います。

今回は2月3日に行われたボーリングレクについて報告します。

平昌オリンピックとはまったく関係ないですが、東京オリンピックの正式種目に落選してしまったスポーツなので、部分的に重なる部分があると感じています。

メンバーの感想も載せさせてもらいますので是非読んでみてください。

●T さんの感想

- ボールが上手くなげられなかったです。
- ・ガーターを多く出してまって悔しかったです。
- ・ボールをなげるタイミングが分からなかったです。
- スタッフの H さんが上手でした。
- Tさんの言動が面白かったです。



「精神障がい者の明るい未来のために」フォーラム ~広げよう笑顔の輪~

7回目を迎えるフォーラムが今年も2月6日(火)に開催されました。鴻巣北本地域自立支援協議会が主催する、精神障がいを正しく知ってもらうためのイベントです。今回は初めて北本市文化センターが会場となり、入場者は400名を超えたようです。

夢工房翔裕園としては実行委員とパン販売で参加しました。個人的に見に来てくれたメンバーもいました。

演劇や地域の施設紹介などいろいろな企画がありましたが、印象的だったのは、うつ病の体験発表をされた男性の方でした。「思うようにできなくても、何かできることをする」をモットーに、今は社会復帰されています。ご両親への感謝の言葉は感動的でした。発表の後、ロビーではたくさんのお客さんが次々と発表者の方に声をかけていました。

まだ行ったことがない方は、来年ぜひ行ってみて下さい。



パン 近況



上野動物園の「香香 (シャンシャン)」にあやかり、パンダの顔のチョコパンを販売しています。手作りなので1つ1つ表情が違います。

かわいいので、是非 店舗にきてください。 他にも、新製品があります。



豆まき

今年は節分の2月3日が土曜日のため、2月1日の昼休みに豆まきをしました。昨年の豆は印刷用紙の裏紙を使って作ったところ、痛いと不評だったので今年はティッシュペーパーで作りました。(当たっても痛くなく好評でした。)鬼役は、メンバーから希望者があり、メンバーのTさん特製の面と、簡単に作った面をかぶって豆まきが始まりました。最初は、みんな遠慮しながらやっていましたが、段々エスカレートして、最後には鬼も豆を拾って反撃。笑いがいっぱいの楽しい時間を過ごすことができました。来年も、実施できれば良いと思っています。

鬼役メンバーの感想

2月1日(木)の日は夢工房での節分の日でした。 鬼の役は楽しかったです。 落ちた豆を拾い反撃もしました。 昼休みにやったので結構疲れました。



イチゴ園の什事

毎日メンバーの皆様と苺の世話を頑張っています。おかげ様で、今のところ昨年の売上を超えることができました。しかし、まだ 夢工房の苺を食べたことがない人もたくさんいるので、もっと多くのお客様に夢工房の甘くて美味しい新鮮な苺を味わってもら えたら、私たちも嬉しいし、もっと頑張って苺を育てようという気持ちにもなります。まだ来園されたことのない方は是非一度遊びに来てください。お待ちしております。

職員より

私は今、農園の作業として苺ハウスの作業を行っています。私は主に苺ハウス内の掃き掃除をやっています。 ゴミとか苺の葉っぱや花びらとか落ちていたら取り残しが無いように取っています。場所によってはゴミ が大量にある所もあれば少ない所もあります。私の場合は、少ないのもいいですが、ゴミが多いほうが掃き 掃除も一番やりがいのある仕事です。お客様も日によっては少ない日もありますが、多く来る日もあります。 私としては来園数が少ない日もありますのでもっと多くのお客様に来てもらえるように青い椅子や白いテ ーブル等そういった所もきれいにして、お客様が来てもらえるようにやっていきたいです。メンバーTさん

僕は、イチゴのハウス作業をやっています。例えば、掃除や、枝取り、形の悪い苺 を取るなどやっています。その中から形の悪い苺と枝取りについてお話します。

形の悪い苺は黒っぽいです。あと、食べられないやつなども取ります。でも、この形の悪い苺はたまにしかないのであまり時間はかかりません。

つづいて、枝取りですが、この前、イチゴがないと思い、枝を取ったら1つだけイチゴがあり、失敗しました。それで K さんは、冗談で「反省文だね」って言ったんですけど・・・ 僕もこれからは気を付けようと思います。

最後に、美味しいイチゴなので是非食べに来てください。メンバーSさん

編集後記

平成 29 年度も、この号が最後となります。29 年度は、できるだけメンバーの感想を盛り込んだ紙面にしたいと思い活動してきましたが、少しマンネリ化した部分もあり、満足のいく通信とはなりませんでした。 平成 30 年は、もっと大勢のメンバーやスタックに参加してもらい、新鮮は情報をお届けできるよう、がんばります。